

建築デザイン

東京ドームホテルの設計監理は丹下健三・都市・建築設計研究所により行われています。東京ドームホテルは、ホテル単体としてではなく、東京ドームシティの中のホテルとして捉え、全体との調和を図るとともに、東京ドームに続くシティの第二のシンボルとなるようにデザインされました。ゆったりとした心地よい流れと遊び心を大切にした“アーバンパラダイス”をキーコンセプトに、訪れる人に心の潤いをもたらすことはもちろん、いままでにない新しい風景に出会えたり、体感することができる「楽しさ」を積極的にデザインに取り入れています。

ホテルのデザインは、次の3つの要素から成り立っています。

"Gate".....門

キーコンセプト“アーバンパラダイス”は、人々が何かを求め、集い、交流する場であると考え、東京ドームシティを訪れる人々を迎える大きなサインとして、また人々に末永く愛されるランドマークとなるように、地上155メートルのホテルの建物で“Gate（門）”を表現しました。外装材には濃淡グレーのセラミックプレートと透過性と反射性を合わせもつガラスを使用し、刻々と表情を変えていく空や都市の景色を映し出します。

"Flow".....流れ

東京ドームシティの高いエンタテインメント性とアミューズメント性が生み出すさまざまな感動や興奮、そして楽しみを与えるものとして、ダイナミックな“Flow（流れ）”をデザインに取り入れました。具体的には、建物の側面にあるシースルーエレベーターや低層棟の三日月のかたちをはじめ、インテリアの細部にいたるまで曲線を効果的に使用し、建物全体に軽快でアクティブな表現を展開しています。これらの曲線は、東京ドームホテルの、格式張らず、訪れる人々を柔らかく迎え入れるカジュアルな感覚を生み出しています。

"Contact".....出会い

ホテルの完成は東京ドームシティのメインストリートとなるシティモールを大きく変貌させることとなります。外堀通りまで延伸された新しいシティモールは、緑豊かな自然やそこを流れる水によって、ホテルの庭園部と結ばれ、シティ内に新しい“Contact（出会い）”を創りだします。また、開放的なエントランスロビーはホテルの庭園部と一体化されており、特にロビーラウンジを囲む水場や植栽が、人々に心の潤いと安らぎを与え、“アーバンパラダイス”として、さまざまな出合いを体感できる空間となっています。